

中学生から見た学芸員とは？

市立伏見中 職業体験学習感想より



伏見中学1年生4人が2日間、学芸員の仕事を体験しにやってきました。化石の研究をする上で大事な技術であるレプリカ作りなどをしました。

Q 2日間の体験を通して、学芸員に必要なことはどんなことだと思いましたか？

- まず、色々な調査をして自然と人の関わりを深めていくこと。その次に市民との交流を深めていくこと。
- 人との交流を深め、関心をもってもらえることが大切。
- 目的をもち、そのために調査や研究をすること。
- 調査や研究などをして、知識を高めていくこと。

Q 学芸員になったつもりで・・・博物館活動センターのおすすめの見所は？

- 「北海道ができるまで」がわかる展示室
- マグマからつくられた岩石
- サッポロカイギュウ
- 図書コーナー：恐竜や動物、植物などのおもしろそうな図鑑があったからです。とてもいいコーナーなので一度来てください。



大型動物化石総合調査報告書 ～サッポロカイギュウとその時代の解明～

完成!!!

● 報告書ができるまで

化石の発見には3つの奇跡？(偶然)が必要です。

- 昔生きていた生物が死んだ後に肉食の動物に食べられたり、壊れたりする前に海底の砂や泥の中に埋もれて保存されること。
- それが化石となった後に地表に姿を現すこと。
- そして最後に、それが人間によって発見されること。

死んだ動物のほとんどは自然生態系の営みの中で、小ささまざまな他の動物や菌類に跡形もなく食べられてしまうのが普通です。奇跡的に難をのがれ、地中で化石となったとしてもそれが地表に現れるにはいくつもの偶然が必要です。サッポロカイギュウの場合は化石の上を豊平川が流れ、水の流れが少しずつ硬い石を削り取ってくれた訳です。そして、わずかに顔を出した化石は、誰かに発見されなければ周りの石と同じように豊平川によって削りだされ、流されてしまいます。

幸いにしてサッポロカイギュウは、普段から身近な自然を注意深く観察していた棚橋愛子さん(当時小5)によって発見され、その情報は人と人の絶妙なネットワークにより札幌市博物館活動センターに届けられました。札幌初の脊椎動物化石は翌年の夏(2003年)に発掘され、翌2004年から3ヵ年にわたる「大型動物化石総合調査」がスタートしたのです。

次に、研究が完成するには3つの要素が必要です。

- 資料(試料)
- 研究者
- そして最後に、予算。

資料(試料)の採取には多くの市民の方にご協力をいただきました。おかげで最初は一頭のカイギュウ化石から始まった研究が、脊椎動物だけ見ても新たにカイギュウ化石4点とクジラ化石6点、魚化石1点が市民の手で発見されています。

研究者は全国から20名を超える研究者が連携して研究を進めることができました。

予算は、札幌市民の代表である市議会での承認を得て提供されました。

そして今、報告書や研究成果を生かした展示として皆さんにお見せできる形になりました。

「奇跡」と、さまざまな条件や協力がそろって行われた3年間の研究成果が一冊の報告書としてまとめられました。サッポロカイギュウ生息当時の札幌の様子やさまざまな生物の営み、藻岩山がいつできたのか?など札幌の地質・古生物学の最新情報です。興味のある方は是非一度ご覧ください。(★お問い合わせは下記まで。)

★ お問い合わせ先

札幌市博物館活動センター

TEL: 011-200-5002 FAX: 011-200-5003

★パソコンを利用される方には、データ(PDF版)をお勧めしています。